

普及活動情勢報告

情勢報告（平成26年2月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

情勢報告

四万十町人・農地プラン集落説明会（1月27日）



志和集落農家12名が集まり、志和集落農業の課題、10年後の姿などを話し合いました。

基盤整備の実施や接続道を確保することなどが、営農継続の条件であることが共有されました。

また、志和営農組合の共同機械整備にあたり、法人化を検討することが合意されました。

今後も合意形成を支援し、人・農地プランを充実させていきます。

「JA四万十にこまる」の消費宣伝（2月1日）とCE利用組合総会（2月8日）



昨年11月から販売が始まった東京の米穀店（株）スズノブの店頭にて「JA四万十にこまる」の店頭試食販売を行いました。普段からお米にこだわりのある消費者のため、「甘みが少ない」や「柔らかい」、「にこまるって何？」等、厳しい意見をたくさん頂き、全国産地の中での四万十の現状を知ることが出来ました。この現状を総会で報告し、全国ブランドへ向けてどういった方向で取組んでいくべきかを提案しました。今後も続けてブランド化に向けた取組みを支援していきます。

JA四万十記帳研修会総会・研修会（2月18日）



総会では、H25年度の活動実績報告、H26年度の計画が協議され、26年度も研修会、経営分析説明会や個別面談の実施、青色申告の推進等をすすめていくことが決まりました。

また研修会では「記帳結果を活用した経営改善について」の内容で、主な品目の現状や改善策等について情報提供を行いました。参加者からの質問もあり、品目を超えて情報交換が行われました。

今後もJAと連携して記帳研修会や産地の活動支援を行います。

大規模なクリ園地再生に向けて進む、生産基盤の整備（2月下旬）



四万十町下津井地区では、昨年からしまんと新一次産業（株）が16haあまりのクリ園の再生に取り組んでいます。今年はこちら農業確立支援事業を利用して園内道も設け、傾斜地でのあらゆる農作業効率の向上が期待されます。

普及所では大規模経営での省力化のために、傾斜地向けの整枝剪定を始め、園地毎に収穫期を区分した受粉樹構成などを指導しています。

第2回高南地区農業改良普及推進協議会（2月20日）



高南農業改良普及所の本年度の取り組み概要及び、来年度の普及指導計画（素案）概要について、農家代表5名、関係機関3名に紹介し、概ね理解が得られました。

参加者からの貴重な意見として、迅速な情報提供、農家と普及所の協働による生育状況調査、高収量農家の要因分析等がありました。

普及所としては引き続き関係機関と協力して地域の農業振興に取り組んでいきます。